資源環境経済学特別演習 II 議事録（２月）

２０１１　年 度 第 １ ３ 回

報告題名 中国における農産物直売所の展開条件の解明―四川省成都市を事例として―	
報告者　　劉　揚帆	**日時**　　２月　２日　午後３時～
（所属分野）　　農業経営経済学	**場所**　第三講義室
座長　中村　彰宏	**議事録担当者**　水木　麻人

出席者

長谷部、木谷、安江、小山田、米澤、米倉、冬木、高篠、伊藤、石井、韓、スチン、神浦、宮里、池田、易思、威廉、王、北村、金、滝田、タンボウニ、中村、堀、山口、泉井、金、今井、渋谷、室井、ナスンムンク、劉、伊藤、佐藤、西田、門馬、菅原

報告要旨

農産物価格が激しく変動している状況、また農家が長期的に貧乏に苦しめられるという中国農業の現実を変えるために、中国で直売所及びその調達システムを構築することを目的とし、中国における直売所の展開条件を解明する。

質疑・応答

高篠：8 番目のスライドに中国で直売所が展開し始めたとあるが、直売所の数や設立年、設立主体、設立経緯等はわかるか？

劉：中国の直売所は 2002 年に河南省のある都市から直売所が始まった。その直売所の形態は、この 8 番目のスライドの図にある契約農産企業です。しかし、中国全国の直売所に関する統計のデータはまだ無い。ただし、新聞とニュースから、6 つの事例が展開していることがわかっている。

高篠：それはスライドの何番か？

劉：9 番です。

高篠：今から調査に行こうとしているところに、ここに行こうと決めているところはあるのか？

劉：直売所の展開している場所はわかっている。

高篠：成都市にはいくつあるのか？

劉：成都市には 5 箇所ある。

安江：2 つ質問していいですか？1 つ目はスライド 19 番目の生産者と販売者の違いについて。2 つ目はここに書いてある直売所を行った後のメリットについて。これはどのような方法で評価するのか？例えば、売上、対利益率のような財務分析をするのか、または直売所の利用率や所得なのか？

劉：まず 1 つ目の質問については、生産者は出荷農家、販売者は直売所です。その他には流通業者がいない。2 つ目の質問の直売所のメリットについては、直売所の方が現行するサプライチェーンより優れている。現行のサプライチェーンは長いという欠点があるが、直売所の形態を取ることでそれが短くなる。それによって価格を安定させる効果が考えられる。スライド 15 番目にある日本の直売所の 6 つのメリットが中国の直売所にも当てはまるかどうか調べる。

安江：ここでいうメリットとは、生産者から見た場合のメリットかそれとも直売所の管理者から見た場合のメリットなのか？

劉：このメリットについては、調査対象である生産者と販売者それぞれの立場からみたメリットについて調査したい。

安江：メリットを評価する方法は検討中ということか？

劉：はい。

安江：中国の直売所は誰が管理しているのか？

劉：上海周辺地域の直売所は、農家が主体となって管理している。河南省では、企業が管理している。

長谷部：展開条件がよくわからない。日本の場合の展開条件は何か？

劉：当初は、農家女性が自身の小遣い稼ぎのために始めた。直売所の展開条件は、低価格と安心・安全という 2 つの要素からなる。

長谷部：どうしてその説明はしないのか？まず日本の展開条件について整理しその結果を踏まえた上で、中国での展開条件を考えていかないとよくわからない。

劉：それをこれからやろうと思う。